

# どっこい生きてます!



人口6万6千人余りの小さな鹿嶋市の名を全国区にしているのは、武勲の神様を祭る鹿島神宮とサッカー J1 の鹿島アントラーズ存在です。偶然の経緯からこの地に居を構える潮騒 JTC ですが、両者の存在は大きな励みです。特にアントラーズの活躍は日本のサッカー文化の振興に大きく貢献しているのはもちろん、クラブ運営のマネージメントは領域こそ違え、潮騒の施設運営にも参考となっています。今回初めて支援者の協力を得てアントラーズの優勝パレードに参加し、地元の熱狂ぶりを改めて実感しました。今後もより一層、地元の誇りであるアントラーズに学びたいと思います。(3ページに記事)

2017

2

## ボランティア活動による 地域貢献からまちづくり支援に



寒さの中にも春の兆しを感じられる季節です。皆様お変わりありませんか。私はこの2月で実年齢が74歳となりました。でも、依存症の回復の歩みを示すクリーン年齢はまだ14歳にすぎません。ご承知のように私は7度目の受刑後に神栖市の鹿島ダルクに繋がり、これが人生の転機となりました。長く反社会組織に身を置き、重度の覚醒剤&アルコール依存症だった私が、少しずつ回復のレールに乗ることができたのです。しかし、入寮生活が3年に満たない時期に、予期せぬ試練に遭遇しました。当時くすぶっていた施設内の混乱が決定的な対立となり、私は重大な岐路に立たされました。既に63歳になろうとしていましたが、悩み抜いた末に自分自身の回復と向き合える新たな施設づくりを決断しました。しかし、当時の私には施設運営のノウハウはもちろん、自己資金や支援者の人脈などありません。引くに引けない状況の中で、幸いにも私に信頼をおく仲間5、6人が行動を共にしてくれました。そうして鹿嶋市役所前の安アパートの一室で、潮騒JTCの前身施設(鹿嶋潮騒ダルク)が産声を上げたのでした。

私達が信じるハイヤーパワーに導かれてのスタートでしたが、地元の鹿嶋市にとって私達の施設は、火葬場やごみ処理場と同じく「迷惑施設」の一つにすぎません。地元では依存症に対する誤解と偏見が根強く、何度挫折しかかったことか…、よく潰れずに持ちこたえられたものだと思います。でも継続は力なり、です。少しずつ理解者や支援者が現れ、私達も地域の清掃ボランティア活動などに精を出しました。あの3・11東日本大震災では市の給水活動の手伝いや、施設の入浴施設を無料開放して被災者支援に貢献しました。その後も宮津台の本部施設前の市道をフラワーロードとして毎年可憐な花を咲かせ、道行く人達の心を和ませています。今では施設運営の柱として、就労支援の一環として取り組む「潮騒農業」は、試行錯誤を経て市郊外の農村部やJA直売所などで一定の評価を得るまでに成長しました。潮騒JTCの歩みはまだまだ道半ばですが、私達の活動にも物心両面で少しずつながら余裕が生まれつつあります。

そこで、これまでの地元へのボランティア活動を一步推し進め、新たなビジョンでまちづくり(地域活性化)への取り組みができれば、という前向きな意欲が私の中に新しく芽生えています。鹿嶋市は豊かな自然環境に加え、歴史と伝統、そして新たなスポーツ文化が息づくまちです。その代表格が鹿嶋神宮と鹿嶋アントラーズという全国区の存在です。アントラーズはJリーグ王者として君臨し、地元の誇りとなっています。潮騒では、その優勝パレード(→3ページに記事)に参加して、潮騒エイサーで盛り上げを図りました。私達は市のお荷物や足手まといの存在にならずに、少しでも旧来の「迷惑施設」のマイナスイメージを払しょくするための自助努力を惜しみません。そのためにも潮騒JTCの財産ともいえるマンパワーを生かした独自活動を模索しながら、まちづくりへの貢献として何ができるか、新たな試みに挑戦していきたいと考えています。

(センター長 栗原 豊)

## アントラーズが地元鹿嶋で 優勝報告パレード



### 潮騒エイサー隊も太鼓の演舞で盛り上げる

サッカー J1 鹿嶋アントラーズのリーグ優勝と天皇杯全日本選手権優勝の2冠達成を祝う祝勝パレードなどの記念イベントが1月29日、鹿嶋市宮中の鹿嶋神宮周辺で行われ、新聞報道によると沿道には約1万5千人が詰め掛けたそうです。このパレードはリーグ3連覇を達成した2009年以来で、鹿嶋の地元5市などで構成するアントラーズ・ホームタウン協議会(会長・錦織孝一鹿嶋市長)が主催しました。パレードは往復約30分ほどでしたが、潮騒JTCからも入寮者に加え、エイサー隊が参加して琉球太鼓の演舞で盛り上げに一役買いました。

アントラーズは昨年、年間の勝ち点では3位でしたが、年間王者を決めるチャンピオンシップを勝ち上がり、7年ぶりに王座を奪回。また今年の元旦に決勝が行われた第96回天皇杯大会も制し、国内3大大会の優勝回数を19とし、他のチームを大きく引き離しました。フロント体制を含め充実したクラブ運営を実現し、常勝チームとしてJクラブの手本となっています。昨年12月に日本国内で開かれたクラブワールドカップ(W杯)ではアジア勢で初めて決勝に進出し、準優勝に輝きました。小さな田舎まちのクラブが、世界トップに君臨するレアル・マドリード(スペイン)を相手に善戦し、素晴らしいゲームを展開したことは記憶に新しいところです。

パレードは、神宮前の参道を市商工会館から大鳥居までの500メートルで行われ、石井正忠監督や小笠原満男選手らがリーグの優勝銀皿を掲げながら、「ありがとう」の横断幕とともにパレード、沿道を埋めた大勢の市民やファンから盛んに声援を受けていました。この日はパレードに先立ち、潮騒エイサー隊も支援者の呼び掛けにより参道の一角で琉球太鼓を演舞しました。メンバーらは「Jリーグの常勝軍団とされるアントラーズの拠点である鹿嶋で活動できるのは私達にとっても大きな誇り。できれば潮騒でもサッカー好きな仲間同士で私設応援団を作り、ホームゲームで応援したい。選手達には感動をありがと



2017 シリーズ企画

潮騒ジョブって  
どんな  
施設なの？

その1

# デイケア施設

(潮騒アディクションビレッジ会館)

最近のデイケアの活動から  
当事者の実態にあった柔軟なプログラムを模索



こんにちは！デイケア・リーダーのツカです。広報部からの依頼でデイケアの活動報告や私が日頃感じている事、さらには今後の課題などを紹介します。

鹿島神宮に近い鹿嶋市宮中地区の神宮ホテル裏に、潮騒 JTC のコントロールセンターとも言える「潮騒アディクションビレッジ会館」(鉄筋コンクリート造り4階建て)があります。潮騒のデイケアはここが活動拠点です。多くの入寮者が、ミーティングを中心とする多様な回復プログラムを、文字通り日中活動として実践しています。以前は病院の関連施設として使われていたので、個室や会議室、フリースペースなどに加え3階には100人以上が集える食堂兼多目的フロアがあります。海岸部にある本部施設が開所した3年後の2012(平成24)年秋に活動をスタートさせました。それまでは同じ空間でデイ&ナイトケア活動をしていましたが、入寮者が増えたのと、昼も夜も同じ顔触れのメンバーがひしめき合うマイナス状態を解消し、他の施設が羨む環境のもとで回復活動に励んでいます。一時期、試行的に医療ケアの誘致に挑みましたが、条件整備などの面で課題を残したために、これをクリアして再度仕切り直してのチャレンジを目指しています。

## 施設生活のスタートラインに 位置するデイケア活動

潮騒通信でも何度か取り上げられているように、潮騒

JTCでは独自の取り組みとして農業隊、作業隊が、自立するための「入り口」のロールモデル(手本)となっています。これに対し、デイケア(日中支援)活動は入寮して間もない仲間が、少しずつ施設での生活に慣れてみんなと一緒に回復し、成長していく居場所だと言えます。いわばデイケアは施設生活のスタートラインに位置しています。そのため第一にすべきなのは一日2回(午前・夜間の自助グループ)のミーティングへの参加です。ミーティングを通して、まず仲間の話に耳を傾けられるようになり、心を開き信頼を築いていきます。やがて仲間の話に共感できるようになり、仲間の前で自分の話ができるようになります。ミーティング活動を通しての仲間との“分かち合い”です。農業隊や作業隊のように日が当たりにくいのですが、依存症の回復に向けた、とても地道で大事な活動です。

現在、潮騒 JTC では約80人の仲間が日中のプログラム活動をしています。最近では高齢の仲間や身体が不自由な仲間が増えて、午後のプログラム(今までの)がうまく活用されていないという悩みが多くなっています。スタッフの人数が足りないというのも背景にある要因です。とにかく多様で難しい持病を抱えた仲間が多くなったことで、スタッフは朝早くから病院の送迎に追われます。ス

スタッフ本人が肝心の施設プログラムにうまく嵌まれないといった事態が生まれており、「先行く仲間」のスタッフ自身のケアがおろそかになるという、重たい課題が生まれています。栗原センター長からは「制度のはざまに放置されて、どこにも行き場のない仲間を救いたい。できるだけ高齢者や心や体の不自由な仲間の目線に合わせたプログラム作りを考えてほしい」との難しい依頼を受けているので、スタッフ全員で試案中です。

## 木曜と土曜日のプログラムを 思い切って趣味の時間に

試行錯誤の中で良かった点もあります。木曜と土曜日のプログラムを、思い切って趣味の時間にしたことです。文字通り趣味なので、自分の好きな事、例えば読書や絵画、漢字パズル、センター長の配慮もあり健康マージャンを楽しむ仲間もいます。これなどスタッフも一緒に加わり、楽しめています。他にも囲碁や将棋、オセロゲーム、カラオケなども地味ながら人気ようです。この間、嬉しくなる場面を目にしました。普段はあまり接点のなかったスタッフと仲間が将棋を指していました。これには、つい目頭が熱くなりました。無邪気に笑って、楽しんでいる仲間を見ると嬉しくなるものです。昔、子供の頃によく遊んだパーゴマやメンコなどは、高齢者の仲間には懐かしく思えるのではないかと、とも新たに考えています。このほか、水曜日の温泉プログラムは気分をリフレッシュできるので人気の一つです。公立図書館利用のプログラムもそうです。このほか、月に一度の誕生日食事会(焼肉などの食べ放題)や4カ月に一回の映画会などもデイケア・プログラムの一環に組み込まれており、入寮者の人気を得ています。

課題となっているのは、運動プログラムのウォーキング、ソフトボールです。若い仲間ですら、なかなか参加してもらえず、四苦八苦しているところです。そこで思いついたのは、せっかく鹿島神宮がすぐ近くにあるのだからもったいない、この地の利を生かさない手はない、ということです。以前には班ごとに少人数でやっていたプログラムですが、いつの間にか立ち消えていました。これを再開しようと考えています。少人数でスタッフ同行ならば、トラブルなく散策できるのではないかと、豊かな自然と貴重な植物の宝庫である広大な鎮守の森を、自分達のペースでゆっくりと散策できれば、それは健康づくりにも役立つのではないかと。そう思いながらなかなか実行できないのですが、スタッフ全員が協力し合えば可能に思います。要は固い決意ではなく、失敗してもいいからやってみること、このように少しでも多くの仲間が楽しく取り組める

プログラム作りをしていく努力が必要です。

## 喫緊の課題はスタッフの手伝いが できる仲間を育てること

もう一つ、私が共感を抱いたことがあります。それはスタッフの一人が土曜日の趣味の時間を利用して仲間達5、6人を集めて勉強会をしていることです。目的はミーティングで話せるようになるのはもちろん、ミーティングのセクレタリー(事務的な下支え役)や司会を育てていく仲間を増やし、次につなげることにあります。私も機会があればぜひ参加してみたいと思います。

このように今のデイケアに求められる喫緊の課題は、スタッフの手伝いができる仲間を育てることです。もともと80人の大所帯が参加できるプログラムは無理があります。それよりも各種依存症や各自が持つ持病の病態などを踏まえ、あるいは基本の回復プログラムの理解度に応じて参加できるような、少人数のセレクト・プログラムを考えることだと思います。ミーティングもよし、散策もよし…、要は依存症の回復には正解はなく、施設の現状に沿ってフレキシブル(柔軟)に対応できるカタチを模索すること。いくら基本の活動だからといって、その人の実態を無視して無理やり既存プログラムに当てはめるのは避けたいです。

最後に、私が昨年からはじめ、試行的に行っているボランティア活動にふれます。デイケアに集う仲間達の中に少しでも体を動かしたい仲間がいたら、作業隊や農業隊の協力を得て、まずは手伝いレベルの軽作業で参加してもらっています。依存症者は他人に褒められた経験が乏しく、否定される人生を長く歩んできました。そのため、回復プログラムに取り組みながらも自分を素直に肯定したり、正しいプライドを持ってないでいます。捨て鉢の人生によって、すっかり自信を失っている人達ばかりです。なので、大切なのは自分達が周囲から認められ、プログラムを通してやりがいや生きがいを見出すこと。強いてはそれが生きる自信に繋がります。そのためにも手軽に参加できる簡易な作業プログラムが求められます。現在、2人の仲間が農業の手伝いをしています。のびのびと、それぞれのペースで、潮騒JTCの真骨頂である「丁度良い加減」で動いている仲間の様子や顔色見ると、「トライしてみてもよかった」と、嬉しく思います。

このようにデイケアでは毎日が忙しく過ぎていきます。まだまだクリアすべき課題も山積みです。でも、私は作業隊や農業隊の力を借りながらトライ&エラーの精神で、デイケアを盛り上げたいと考えています。(ツカ)

## 第13回「もはや潮騒はダルクの枠に収まらないパワーを持つ存在に」

# ユタカ vs トム 対談

潮騒農場でサツマイモ掘りを体験するデイケアの仲間たち。▶  
自然と向き合う農作業が回復の難しいメンバーには福音となっている



——この対談は当初1年ほどの連載で終わらせる予定でしたが、就労支援についての内容が深いので、もう少し延長させてもらいます。これまでに潮騒農業の成功要因には栗原センター長の農業に対する強い思い入れがあり、ファイザー助成プロジェクトの恩恵によりソフト・ハード両面から潮騒農業の基盤ができたこと、さらに潮騒農業を担う農業隊が生まれ、地元の農業者の支援にも恵まれたことが大きい、ということでした。トムさんからは鹿嶋の地の利も見逃せない、自然と向き合う農業の持つ不思議な力が魂の深いところで依存症の回復に役立っているのではないか、という指摘も頂きました。それらを踏まえ、潮騒の現状を絡めながらさらに議論を進めていただけますか。(司会進行・広報部)

### 病院が依存症をより複雑に、 治療を困難にしている？

**ユタカ** 私は「まず行動ありき」だから、物事に対する構えが単純なんです。とにかくやってみよう、もしダメだったら、それは私達の行動をハイパーパワーが時期尚早だと判断していることだから、次はもっと条件を整えて何度でもチャレンジしよう、という立場です。傍から見たらずいぶんと無謀、無計画だなあ、と思われるかもしれませんが、短気が多い元ヤクザにしてはずいぶん辛抱強い人間だと思われるかもしれません。まあ通算したら20年近く、7回も刑務所に「お務め」した私のような者でも救われたんだから、どんな人でも回復できるはずだと思いい込みが私にはあるんです。だから潮騒に助けを求めて来た人は、「過去がどんなでも病気が深くても拒むまい」と決めています。  
——でも、その分リスクも増えてスタッフの仕事も多くなっていますよ。

**ユタカ** その事なんだが、もはや依存症の世界は単一の病理としては論じられないと最近実感しているんです。ダルクの仲間が多様化しているという指摘は以前からありましたが、潮騒に入寮する仲間を見ていると複合的な依存(クロスアディクション)状態が当たり前になっている。精神科病院を何度も経験したり経由しているから、当然ながら処方薬依存も重くなっている。私の偏見かもしれないけど、病院が依存症をより複雑に、治療を困難にしているのかな?と思う時があります。アルコール性・薬物性の精神疾患というような診断名を無理やり付ける事で、当事者も治療する側もとりあえずは安心する。私も長く複数の精神薬を服用しているけど、いったん飲み始めるとこれがなかなか切れない。いつの間にか本来の依存症よりも、統合失調症に象徴される精神的な病気のほうが重くなっている。

**トム** それは僕も痛切に感じます。加えて精神医療に関しては国の方針が病院から地域でのケアへという流れだから、それに適した受け皿がないまま当事者が中途半端な形で地域に放り出される。たまたま民間のダルクがある程度実績もあるから、なんだか体よく使われているなあという印象が拭えません。もともとダルクに繋がる人達は既存の医療体系や今の福祉制度の枠に収まりにくい側面があるからでしょうか、ほかに行き場のない厄介な精神的な病の人達がどんどんダルクやその関連施設に流れ着いている。それが最近の動きですかね。それらの人を受け入れる潮騒は、もはやダルクの枠に収まらないパワーを持つ存在になっているのかもしれないですね。

### 当事者活動の原点に戻ろうよ、 という問題提起に

——その評価はプラスに受けとめたいですが、なんか理

不健全さを感じますね。本来なら国がきちんと制度的に位置づけてケア態勢を敷くべきですよ。

**ユタカ** さっき言ったように潮騒の場合は入寮条件のハードルが緩く低いから、余計にその傾向が強いです。ダルクでもお払い箱となった仲間や家族が音を挙げ、もはや行き場のない困難な病気の人達ばかりが来るようになりました。当事者の家族や行政の福祉窓口から「ほかに行くところがないので、なんとか潮騒でお願いします」と懇願して来る。潮騒が、既存の福祉施設や精神科病院から「厄介払い」された人達の「最後の居場所」となっています。でも、こうした新しい仲間には12ステップはもちろん、潮騒の提供する回復プログラムがはじかれてしまっています。受けたはいいいけど、この先どうしたものかと悩んでいるのが正直なところ。私の中にも今の状況には面白くない感情が否めません。

**トム** 確かにその点では僕も潮騒に危うさを感じますが、ある意味で潮騒の取り組みは当事者活動の原点にもう一度戻ろうよ、という僕らへの問題提起を含んだ試みのように思えます。もともと精神医療の傍流にある依存症の中で、さらに厄介とされた薬物依存症の回復が、30年以上も前に近藤恒夫さんによって当事者活動として始まった訳ですね。「アル中が回復できるなら俺たちだって…」と。専門家とされる精神科医さえ匙を投げた世界が、実は当事者同士のシンプルな分かち合いにより、仲間との強い絆が形成されて回復へと導かれていく。同じ病気の仲間達が上下関係なく繋がり、弱さこそが本来の強さである事を理屈抜きでダルクは実証してきたと言えます。そして今潮騒が、新たな困難な課題として、ダルクの枠に収まらない新たな仲間にも当事者活動の原理がどこまで通用するか？という試行錯誤の試みに舵を切ったと考えていい訳ですね。

**ユタカ** そうです。潮騒ではスタッフが知恵を絞ってあれこれ試行錯誤していますが、実際に高齢者を中心に潮騒農業に関心を持つ人が増えています。少数ですが、いい結果が出ているようです。病気が深くいろんなハンディを抱えて大変な人達の存在が、実はみんなの回復を最も底辺で支えているという、ダルクの面白さを実感させます。それがどこまで有効か、拡張できるのかは分かりませんが…。

## 潮騒は時代の困難にあえてチャレンジしている

——薬の服用の問題はあるにせよ、なるべく薬に頼らずにシンプルな当事者活動に身を委ねることで、今のと

ころ潮騒農業がいい結果に繋がっている、と。

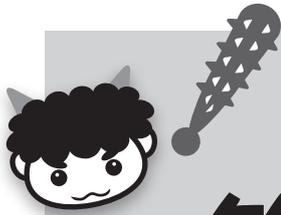
**トム** これは是非強調したいんですが、今まではどちらかかというところではダルクは支援してくれる人からいろんな恩恵や施してもらった形でした。自分たちはそれを有難く使わせて頂く、お返しにしろ、専門の人材やノウハウにしろ、ね。それらを自分達の財産として増やすとか、広げるとかの発想はなかった。どちらかかという受け身の姿勢ばかりで、有難く献金をもらう、もらったなら研修などで外国に行くのに使わせて頂く。フォーラムとかコンベンションへの参加を研修として、半ば観光みたいな名目で海外に出かけるのに使わせてもらう。それでおしまい。で、次に誰かが何かをくれたら、それを使わせて頂く。あるいは割のいい助成事業に手を挙げる。そのことの繰り返しでした。自前で不足分を賄おうとする熱意とか、自力で成り立つように施設運営を何とかするという工夫やエネルギーはほとんどなかった。今までは、それでやってこれた幸運な時代だったんですね。

これは悪い意味じゃないんです。教会とか企業、団体、理解ある篤志家をお願いします。ただ目的が回復につながると、クリーンであるとかソーバーであることを目的としているならいいんですが、もはやそれに合わない人達がダルクや潮騒に登場している。これが更に施設運営を難しくしている現実があることは、ユタカさんご指摘の通りです。これをどうしたらいいか…。そういう意味で言うなら、潮騒はダルクの置かれている時代の困難に、あえてチャレンジしていると言っていいと思います。

ご存知だと思いますが、実はもう10年以上も前にその問題に着目して、潮騒に先駆けてトライしているケースがあります。タケゾー(市川岳仁)さんの三重ダルクです。彼はダルクの中では大学院を修了した高学歴のリーダーですけど、今の潮騒がぶち当たっている問題に早くから着目して興味深い取り組みをしています。潮騒と同じように、ファイザー製薬の助成を受けた大型プロジェクトで一定の成果を出しています。今の状況は分かりませんが、タケゾーさんの問題意識やその取り組みは参考になりますね。

**ユタカ** 潮騒でも三重ダルクの取り組みには関心を持っていて、農業隊メンバーが向こうのフォーラムに参加して刺激を受けたりしました。タケゾーさんには数年前に潮騒フォーラムで講師をお願いして、その取り組みについて講話してもらいました。できれば、もっと交流を深めたいですね。

——すいません、今回も尻切れになってしまいました。その後については次回にお願いします。(この項続く)



鹿島神宮の

# 節分祭



栗原センター長が袴姿で「福」を呼ぶ

2月3日は節分でした。潮騒 JTC では、家族との縁が薄くなり季節の伝統行事に触れる機会の少ない入寮者のために、地元で開かれる節分豆まき行事の参加に力を入れています。今年は、例年参加しているテイケア近くの護国院の節分祭が寺側の事情で中止だったことから、これに替わり初めて本場、鹿島神宮での大規模な節分祭に参加しました。支援者の尽力によって実現したものです。鹿島神宮の節分祭は、地元出身の歌手やタレント、力士、鹿島アントラーズの選手らが参加するビッグな豆まきイベントとして有名です。

今年も豆まきは午後3時と午後6時の2回追儼(ついな)神事の後に行われ、夜の部には「かしま大使」の研ナオコさんと相川七瀬さん、元鹿島アントラーズの選手らが、特別参加の年男として舞台上がりました。栗原センター長も袴(かみしも・はかま)姿で、同じ格好の年男・年女の皆さんと並んで、本殿前の特設会場の壇上から「福は内、福は内」の掛け声とともに威勢よく豆をまきました。下では潮騒の仲間達が氣勢の参加者にのみ込まれながらも、「お福分け」の当たりくじ付き福豆や袋菓子、餅などをゲットしようと一生懸命でした。(み)



## センター長が研ナオコさんとツーショット写真に(→背表紙に写真)

今年の節分・豆まきは鹿島神宮に参加しました。午後6時の第2部でしたが、約5千人以上が集い(入れ替わりも含む)一時間前についた潮騒の仲間でも後方になっていました。鬼の神の仮面を仲間がかぶっていましたが、同神宮では鬼のいない神聖な境内で行われるので、氏神様はお怒りでなかったでしょうか?(笑)というわけで同神宮の豆まきは「福は内」とだけ声にするのが習わしです。栗原センター長が年男・年女と一緒に立派な袴(江戸時代の武士の礼装)をまわっていました。

入寮者の中には子供たちがお菓子を入れる大きな箱を持っている姿に「すげー、でかいの持ってる?」「そんなに飛んでくるのか?」などいいながら、驚いている仲間もいました。豆まきが始まり、私がカメラを舞台に向けたときセンター長は下に集う子供たちに、そっと落とすように優しくお菓子を渡していました。歌手の研ナオコさん・相

川七瀬さん・アントラーズの選手も参加して盛り上がり、研ナオコさんとセンター長とのツーショットも取めることができました。お菓子や豆をゲット出来た仲間は少なかった様ですが、私はあめ玉を一個、拾い福を手にとりました。ありがとうございました。(プー)

## 子供に配慮した仲間達もいて自分も心が和んだ

2月3日午後5時30分、潮騒ジョブセンターの仲間達と節分の豆まきに出かけました。研ナオコさん、相川七瀬さんはじめ、鹿島アントラーズの人達、うちの栗原センター長も豆をまく方にまわって、「福は内」「福は内」と大声で張り切っていました。子供の袋にそっと豆を入れているジョブセンターの仲間もいて、自分も心が和みました。こうした伝統ある季節行事に触れられて、いい体験ができました。施設の仲間が参加して、これからもずっと続けてほしいですね。(ブルース)

## 第3回

# 「日記風の回想録」

## 糖尿病の悪化と改善、 そして広報部外しと 復帰の顛末



紙面の都合で間が空きましたが、引き続き僕の日記風の回想録を続けます。自分の健康管理のずさんさから、持病の糖尿病が悪化しているにもかかわらず、現実逃避を続けていた僕でした。ある時、自助グループミーティングの会場で、僕は大切な忘れ物をしてしまいました。それは、僕がいつも常に持ち歩いているとけいけんいけいけん血糖測定機でした。測定機には、過去三年程の血糖値の記録が日付も合わせてデータが残っていたのです。僕は以前から、自分の血糖値を毎食前に測る事に対して物凄く面倒に思えて、煩雑なので忌避していました。

結果的に毎日計4回の血糖測定をするという、重症の糖尿病患者の基本法則を破り続けていました。主治医には「自分自身で毎食前に計測してノートに書いています」と、ずっと嘘をついていたのです。そんな折に、ミーティング会場にうっかり測定器機を忘れてしまったのです。でも、なくした測定機が3日後には潮騒のデイケアに戻って来ました。そしてスタッフ達に、測定機内の3年程の測定結果のデータを見られてしまったのです。すっかり僕の嘘がバレてしまいました。そんな事とはつゆ知らず、呼び出しを受けて2Fのスタッフルームに行き、その現実を知ったのです。すぐ後に広報部長のトムさんから「施設の仕事や任務より、命に係わる血糖値管理に専念するように」と申し渡され、やりがいを感じていた広報

部の仕事を当面、自粛するよう命じられました。実態はテイのいい「クビ」でしたが…。

これもハイヤーパワーの配慮というか計画なのでしょう。不思議な事に、それからというもの、僕の糖尿病の数値(HbA1c=ヘモグロビン・エーワンシー)は劇的ともいえるほどの改善を見せ、9.0%もあつたのが何と7.1%まで下がっていったのでした。その頃、僕の居場所がなくなった広報部では突然、力量のあるTさんが退寮してしまい、大きな打撃を受けていました。だからでしょうか、和太鼓の練習時に僕は広報部のフジさんから、「イチ、広報部に戻って来てパソコンの打ち込みを手伝ってくれよ!」と熱心にラブコールを受けていました。

でも僕は、そんなフジさんの熱烈ラブコールを無視していました。というのも心の中では、「もうあんなテコ扱いはされる様な場所には二度と行きたくない」という気持ちが強かったからです。既に持病の糖尿病は改善されていたけれど、戻りたくなかったのです。半面、こうも思いました。「広報部の為に誘いを掛けているのではなく、僕の回復の為にそう言ってくれているフジさんを、ここで裏切ってもいいのか?ここでフジさんを裏切ったら、僕はこの後の人生を今よりもっと台無しにしてしまうのではないか…」。思い悩んだ末に僕は、広報部への復帰を決意しました。(この項続く)

# 受刑者からの手紙

## 同囚の躓きを反面教師に自分の課題克服に取り組む

今の工場へ移って早くも4カ月が過ぎました。いろいろとありましたが、作業にも慣れて生活にも慣れて一生懸命、頑張っておりますので安心して下さい。昨年には、潮騒ジョブトレーニングセンターに帰る予定の同囚の友が問題を起こしてしまい、私の言う事も聞かず喧嘩をして調査と成ってしまいました。私の言葉の援助も無駄になってしまったのか…と、とても悔しく残念に思っています。私の注意が足りなかったのではないかと反省して居ます。本当に困りました。私は私で一生懸命頑張って居ればいつか周りが見えてくれる、と信じて頑張っていくしかありません。自分なりに欠点を見つけて自分の課題克服に頑張っていきたいと思っています。“何事にも我慢する事が大事な事なのだ”と肝に銘じ、一日一日、回復の道へと進んでいきますので、今後も御指導の程宜しくお願い致します。

昨年暮れごろから社会ではインフルエンザが流行しているようなので、陰ながら私も心配しています。お手紙を出したのですが、返事がなかなか来なかった為、私は“もしやインフルエンザなのでは?”と、心配致して居りました。当所でもインフルエンザが流行して、私の部屋からも一人が入院する事となりました。私達も別の部屋にて生活をする事になっている次第です。今の所、私達には何の反応も出て居ませんので安心して下さい。栗原センター長初めスタッフの皆様には、風邪など引かぬ様に頑張って下さい。(東京都 K・K)

## 覚醒剤教育で薬物を使う 利点と欠点について勉強した

つい先日行われた私の面接において、担当の面接官に対して「覚醒剤は素晴らしい物です」と言ってしまったのですが、それに対して面接官は「君は覚醒剤の事を詳しく勉強した方が良い」と言われて現在、処遇日に「シャブ教育」を受けて居ます。内容はと言うと、薬物を使うメリット(良い点)やデメリット(悪い点)等々の質問に答える事です。私が答えた質問と答えは『「メリット=集中力が増し何でも没頭出来る」、デメリット=効果が無くなると脱力感が有る』と答えたのでした。他にも色々問題が有りましたが、「これを三カ月間、処遇日に勉強しろ」と言われました。三カ月間勉強しろ、と言う事は、私の仮出所日が二月下旬に成ってしまいます。満期日が三月半ばですので、正直なところ今の気持ちとしては何となく不安です。またお便りさせて頂きます。(北海道 I・H)

## 52歳ながら心から更生の道をと 考えているのでご指導を!

私は今回が5度目の薬物使用で、「これではいけない!!」と今では反省の毎日であります。前はM刑務所で平成27年の5月に出所したものの、やはり6か月しかもちませんでした。M刑務所での薬物指導にて、潮騒さんの話を伺いました。是非私に力を貸しては頂けないでしょうか?皆さんの力を借りて更生の道を歩みたいと強く思っております!!!そして第二の人生を歩みたいと思っております!!!!!!こんな私ですが、どうか宜しくお願い致します!!

それにあたり今後どの様な手続き、また身元引き受け等をして頂けますか?

この先、どの様な進め方が良いか、助言して頂けたら幸いです。もし、施設の資料等が有ったら、御面倒をお掛け致しますが郵送頂ければ嬉しく思います。重ね重ねに成りますがどうか、こんな私ですが施設の皆さん、ご指導の程、宜しくお願い致します。私は今年で52歳に成り、心から更生の道をと!と考えて居ますので、施設の方で力を貸して下さい。至急、ご返事(面会等)を待って居ます。(東京都 S・T)

今回の手紙の中にキリスト教に入信した方の思いが綴られています。もしかして受刑地は神に近い場所なのかもしれません。信仰という意味合いとは異なるかもしれませんが、依存症の回復原理にも通じるものがあります。自分の無力を知り、謙虚になって自分を超越する力に身を託す生き方は、特定の教義はなくても優れて宗教的な生き方のように思います。

## 回復を諦めずに日々努力する田代さんに心打たれた

シゲさんはアルコールに依存して苦しんで居る様子ですね。皆、それぞれなのだな、と実感させられました。「学びは苦ではなく喜びなのだ」との言葉ですが、私は大変嬉しく思います。私は今まで神などは一切信じずに無宗教でしたが、今日をきっかけに神の存在を知り、そしてまた神様の存在を信じて行こうと思っておりつ先日、こちらにてキリスト教に入らせて頂きました。

先日、初めて参加させて頂いたのですが、心が洗われる様な思いで大変嬉しくなり、「これは良いな」と思いました。こんな私にでも回復の可能性はあるのかも知れませんが、先日、指導日に日本ダルクでスタッフとして働く「田代まさし」さんのTV視聴が行われました。昔の様な田代さんではなく、ロレツが回らなくなった依存症の田代さんが全てをさらけ出されており大変、心を打たれました。苦しみながらも回復を諦めずに日々努力している、そんな田代さんを私は単純に「凄い！」と思いました。

回復に向けて生きるには一生、欲求と戦いながら苦しんでいかなければならないのでしょうか？今は懲役の厳しさに正直、参っております。今後うまく生活していけるのか、何だか不安しかありません。逃げたくても逃げられませんので、日々自分に出来る事を唯頑張ってやっていくしかありません。ともかく今は自分には何も出来ませんので、出来たら良いのですが私のスポンサーを探して頂きたいのですが無理でしょうか？宜しくお願い致します。

(北海道 M・M)

## 我欲を捨て見える月前の事に夢中に成り余計な事を考えない

(1月2、3日に大好きな大学生の箱根駅伝大会を視聴でき)人間の人生には夢、それに向けての目標や努力と継続が必要であり、もし己の志や目標をもつ仲間が近くに居るのであれば、手を取り合い協力し、信じる事が大切なのだと思います。反対に信じる事が出来なくなった仲間とは、縁を絶つ勇氣と判断、決断力が必要な事も今回学びました。私自身スポーツが好きで懲役に来ると、運動時間は必ず走り込んで体力作りをして居ます。ここでは10月～5月までは天候の都合でグラウンドが使えない為、ランニングが出来ず、少し悲しいのですが筋トレをバリバリやって気分良く汗を流して居ます。

最近自分には真剣に思う事が有ります。私は過去、シャバにおいて周りの人達から沢山持てはやされてエリートと言われて来たものでしたが、今の自分はどうなのだと思います。現在私が居る所であってもシャバであっても、過去にどれだけエリートと言われてようが、“社会で罪を犯し刑に服しているのは服役中の自分なのだ”って事を見失っているのではないかと感じる今日この頃です。自分の置かれた身の上の“分”をわきまえないければ、シャバへ戻ったとしても必ずまた“ズルズル”と正道から外れ後悔する事に成ってしまう、と思います。

私たち罪人はカタギの方々の大変な血税で養われ生かされているのです。懲役である間は我欲を全て捨て…そう、バカに成り、指先まで神経を集中させ、声を出す所では、声を出して行進をしっかりとやる。とにかく言われた事、決められた事って言うものをバカ正直にやる事が、私たちに課せられた懲役者の“納税”行為なのではないか？などと考えつつ、食事を頂く時も心の中で感謝して居ます。我欲を捨て見える月前の事に夢中に成り余計な事を考えずに居ると、心に余裕が出来た上に、他者の事を思いやる事も出来る様になってきました。とにかく今回は担当の親父さんや生活の場に恵まれ、色々面倒を診て頂きながら…怒られて優しくや情を学び、人間として更生すべく術を教えて頂きながら充実した服役をしています。(北海道 Y・T)

# しおさい俳壇

2月のお題

節分

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.37

センター長 栗原豊

私を回復へと導ききっかけをつくってくれた姪宛ての手紙を通して、自分の問題である覚醒剤とアルコール依存症の問題の所在を明らかにし、回復を側面で支える私の俳句づくりの歩みを振り返る試みも、そろそろネタ切れとなってきた。そこで今回は、命の恩人である姪について記してみたい。

◇ ◇ ◇

前橋刑務所での刑期も残り1年ほどになった頃に姪は面会に来てくれた。肉親として初めての面会で、私はどんなにか嬉しく、心強かった事か…。今でもその光景は目に焼き付いている。面会室のガラス越しに見る姪の姿は、大人びて健康そのものに見えた。私の記憶にある姪の姿はあどけない少女ただだけに、その成長ぶりに驚き、改めて時の流れを思った。姪はまだ二十代の若々しさで、希望と夢を持つ普通の女性に思えた。でも彼女にはクスリの重い過去がある。私と同じ覚醒剤だった。それだけに「なにかしら私の悪行が影響を及ぼしたのではないだろうか…」という複雑な思いが私の中にあり、どう話を切り出せばいいかわからなかった。具体的にどういう話をしたかは、もう思い出せない。恐らくお互いの近況などを語り合ったのだと思う。

その中で、姪自身からもクスリ話題が出て、今、NAという自助グループに繋がり、同じ依存症の仲間達と一緒に使用をやめ、回復を目指して活動していると話してくれた。私にとっては、彼女がどのような団体に入って回復しているという事よりも、今こうして目の前でクスリを使わないで元気にいる、ことが驚きだった。当時はまだ、少しも依存症についての知識がなかった私は、なんて意志の強い子なんだ、と目の前にいる姪の存在がとても眩しく映った。意志と根性では誰にも負けないと自負してきた自分が、クスリの呪縛にはからつき弱く、なかなか脱出できずにいる事がとても気恥ずかしかった。その後、姪から定期的に手紙が来るようになり、私にとっては珠玉の言葉がもたらされるようになる。(次号に続く)

塀外を 駆ける子等の 掛け声に 笑いが混じる 明日は啓蟄  
夢に逢う 子等は幼く 妻若く 吾れの頭脳に 時止まりある

小さき手に  
握る福豆  
節分会

ひろ

節分は春夏秋冬の境にあります。冬から春になる二月が雪国の人達などには特別に待たれる。また季節の変わり目は体調など崩れ易いので邪気を祓う意で平安時代中国から伝わり、始めは宮中で大晦日に行われたが、今の様に一般化したとも。子供が小さい手に豆を撒くのも微笑ましい景の句です。

特選句

図らずも

出でし裏声

鬼やらひ

あべ

裏声は普段の声でなく少し低音で変わった声や、如何にも豆まきの神主などになったつもり声。俳優さんがテレビ朗読などをするとその役に成りきって読むので実感がわきます。豆まきに思わず誰かになった思いの声を出したのだ。俳諧の面白い句です。

特選句

春立つや

我にも欲しき

ドロインの目

ゆたか

ドロインは超小型ヘリコプターでもあり、近年は撮影と物の運搬に利用される。ことに画面を即時送信出来るので、災害地や橋の点検などに利用されカメラの威力を見る。立春を迎えて暖かい日はドロインの様になって空を飛び野や山を自由にみた思いになる。面白い句です。

特選句



# 今月の秀逸句

豆撒くや吾にも今年の福の来よ

ゆうこ

節分の豆撒きは昔から豆に邪気を祓う力が秘められている謂れから行われる。また豆は元気にとの意もあり、少し駄洒落的な意もあります。豆撒きをして今年の幸を祈る慎ましい思いの句です。

節分や豆に暮らせと母の声

こば

豆とマメで駄洒落的ではありますが、豆撒きをして国の母を思い出しているのかも。現代は核家族化で郷を遠くに暮らすのが多い、母の声も懐かしい句です。

節分や鬼の真似して我が子追ふ

みく

豆撒きの鬼の役目は父か母が多い。私も父が戦死したので祖父や母が鬼の代役をしたのが懐かしく、また父のある家庭が羨ましく思えた子の日进行句です。

節分や幾年住みぬ鹿島の地

しま

節分は主に春への思いを込めたもので、他にも花見や進学、入社など明るい希望があります。その節分を迎えてこの地にもう何年暮らしたのか、省みる共に何か決意の句にも思えます。私も鹿島転勤後五十年を思います。

鹿島宮豆撒き子等と遠く見む

おの

神宮の豆撒きは昼と夜に行われ大勢の人出で賑わうが、豆などを拾う時は子供や年寄りには危ない。私も若い頃、二度ばかり参り豆を拾うに苦労しました。子供と遠く見るに実感のある句です。

節分や親父酒飲み赤鬼ぞ

しげ

節分の鬼は赤と青色が一般だが、他に黄、緑、黒がある。それは仏教の五つの煩惱を表し修行の邪魔をするので、豆を撒いて祓う意味とのこと。酒で赤鬼となり、子達に豆を打たれるのかも。因みに赤は貧欲、青は憎しみ、黄は浮情、黒は疑いを表す。

麦の芽や七十歳の背を伸ばす

ゆたか

麦は十月頃撒くが寒い中芽を出す。そして株を増やすために麦踏をする。子供の頃手伝いをしたのが懐かしい。その麦の芽の伸びた畑の近くを散歩しながら、老いた自分も背を伸ばす。芽の青さと共に明るい句です。

## 佳作

豆撒いて家族の幸を願ひけり	みく	節分や心の鬼も退治せり	いるか
節分の豆では足りぬ豆好きよ	くま	豆を撒くや東西南北福来る	まこ
福を呼び悪を祓ひて豆を撒く	たえ	水仙や節分の朝香りけり	ゆき
豆撒ひて我の心の鬼退治	ゆめ	節分に鬼嫁和睦求め来し	あべ
今年こそ鬼の退治や豆を撒く	かこ	節分の豆奪い合ふ子の日かな	みく
我が胸に春の早や来よ豆を撒く	れいこ	追儺の夜神の御座所の真の闇	ゆたか
子を思い幸せ願ひ豆を撒く	めい		

どっこい

# 私も生きてます ~我が回復記~ 「ブーちゃんの回復記」

第5回

## 自制心のタガが外れ自由に飲めるホームレス生活に

僕には20代の時に4か月ほどでしたが、ホームレス経験があります。自由に酒が飲めるなら“世捨て人”となってもいい、と思ったからです。でも、結果的に僕はホームレスにはなれませんでした。最後のところで、人としてのプライドが捨てられなかったからです。アル中は依存症が進行すれば、家族や仕事、地位や名誉、社会的な信用などを悉く失い、やがてはホームレスの「どん底」生活に陥るケースも珍しくはありません。今回はその話を記します。

◇ ◇ ◇

仕事の厳しさから辛抱し切れず、ついに叔父の中華料理店をやめてしまうと、(25歳になっていた)僕は再び飲んだくれの荒れた生活に戻っていました。春先のある日、浅草のショットバーで飲んでいたはずが、いつの間にか地下鉄の駅に向かう階段の踊り場に倒れていました。気が付くと、見知らぬ年配と若い男性二人に介抱してもらっていたのです。どうやら酩酊によって喧嘩をして財布を奪われ、靴も片方がなくなっていました。二人は新聞とビニールを敷いて、そこに横たわるようにしてくれていました。僕はあちこち血だらけで、唇も切れて腫れあがり、会話もできない状態でした。二人はホームレスでした。半ば成り行きで彼らの後をついていくと、浅草・仲見世通りの裏手にあるたまり場に着きました。なんと僕は、その居心地の良さから、そのまましばらく住み着いてしまったのです。

それまではしこたま酒を飲んで、飲み過ぎた、怪我しちゃった、家に帰らなちゃ、仕事しなくちゃ、という自制する最後の線がありました。あちこちでトラブルや問題を起こして家族や周囲に迷惑を掛け通しのアル中の身であっても、どこかで自制心が働いていたのですが、この時には一種のカルチャーショックのように「もういいや、この人達に付いていけば自由に酒を飲めるかもしれない」と感じたのです。実際にホームレス達の段ボール生活に溶け込むと、彼らは僕に気兼ねなく酒を飲ませてくれました。僕の中にはタガが外れた怠惰な気持ちと野放図な開放感が生まれ、「もうどうでもいいや」「この方が楽だわ」と安住の地を見つけた気分になりました。

かつて学校では臭い臭いと級友達にいじめられたけど、もうどんなに酒臭くても誰も文句を言わない、ここには僕を苦しめる厳しい親方(叔父)もいない、世間体を気にして生活態度を改めろ、と口うるさく責める家族もいない。まさにアル中には「天国」とも言える環境に思えたのでした。それに、ここにはホームレス生活者の悲喜こもごも、多様な人生の物語がありました。アル中でなかったら出会うことのなかった人達に、短期間ながらも触れ合えた事は僕の依存症人生に何かしらの示唆を与えてくれました。

(次号に続く)

## 2月のバースデイ

れいな



日々玲奈デス。

くり



最近麻雀が勝てません。

ひでき



後ほど

ぶー



ただいまインフルエンザ罹患中

から



考え中

こば



さらなる10年に向けて

## 2月の行事予定

- 2月3日 鹿島神宮節分祭
- 2月9日 潮騒俳句会
- 2月12・19日 秋元病院メッセージ
- 2月26日 潮騒家族会

## 3月の行事予定

- 3月10日 潮騒俳句会
- 3月12・18日 秋元病院メッセージ
- 3月19日 潮騒運動会  
(県立白浜少年自然の家)
- 3月26日 潮騒家族会

### 献金・献品を頂いた方 (2月15日現在)

- ・吉村由美子 様
- ・木川理容所 様
- ・堀江 やい 様
- ・永山 清 様
- ・上田 礼子 様
- ・橋爪 様
- ・K&G 企画 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 編集後記という名の独り言

施設生活で気を付けなければならない問題に感染症対策がある。インフルエンザの流行期に入り、潮騒でも罹患者が相次ぎ頭を悩ませている。もちろん予防注射はしているが、それでも何人かは罹患している。実は我が家の息子(24)=ダウン症で重度の知的障害=が通うデイケア(生活介護)福祉施設でも、あと2~3人が罹患すれば休園となる危機的な事態にあるようだ。本号が読者の手に届く頃には収束していればいいが…▼その息子との二人暮らしになって7カ月が過ぎた。言葉を発することなく来ているので、言葉以外の五感を働かせてコミュニケーションをとっているが、排便や排尿のタイミングなどで失敗もある。生前、妻は我が子のそうしたシグナルを見逃さず、ほぼ完璧に対応していた。理屈抜きに母性とは凄いなあ、と思ったものだ。しかし、未熟な僕は、まだまだ妻の力量にはとても及ばない▼だから失敗する度に、ああ妻が生きていてくれたらなあ、とないものねだりで思ってしまう。言語によるコミュニケーション能力を持たない悲しさから、息子は自分の思いをうまく伝えられないと、時おり激しく自分の頭を叩く自傷行為で「何事か」を訴える場面がある。家でならとにかく、買い物などで外に連れ出した時にこれをやられると、周囲の人達は驚きの反応を見せるだけでなく、この父親は息子を虐待しているのか?と誤解されかねない▼予期せぬリスクを抱えた障害者の家庭には大なり小なり毎日の“小さなトラブル”は不可避だ。このことに過剰反応して、安易に自己責任を求める世間の無責任な視線を気にしすぎると、家族はどんどん内向化して追い込まれていく。ここで大事なのは卑屈にならずに、半ば開き直って「みなさん、困った時にはどうか助けてください」と周囲に自分達の非力を認めてもらえる度量を持つことだろう。その程度の「お人好し」になれば、なんとか困難な状況下でも生きていけると思う▼程度の差こそあれ、人間はお互いに迷惑を掛け合って生きるしかない宿命を負っている。この当たり前の現実認識を、みんなが默契として受け入れることができれば、ずいぶん地域社会も風通しがよくなるだろうと思う。それだけに、もはや行き場のない困難な障害者の、最後の居場所となりつつある潮騒JTCの存在は、我が家にも勇気を与えてくれている。(市)

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2017年2号

### Contents

- P② ボランティア活動による地域貢献からまちづくり支援に
- P③ アントラーズが地元鹿嶋で 優勝報告パレード
- P④ 2017 シリーズ企画「潮騒ジョブってどんな施設なの?」  
その1: デイケア施設
- P⑥ ユタカ VS トム 対談 第13回  
「もはや潮騒はダルクの枠に収まらないパワーを持つ存在に」
- P⑦ 鹿島神宮の節分祭
- P⑧ 第3回「日記風の回想録」  
糖尿病の悪化と改善、そして広報部外しと復帰の顛末
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「初詣」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第4回

### ■ 編集・発行:

特定非営利活動法人  
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)  
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス銚田  
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)  
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>





研ナオコさんと  
センター長。  
鹿島神宮節分祭  
にて。



平安の祈り  
神さま、私にお与ください  
自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを  
変えられるものは変えていく勇気を  
そして、ふたつのものを見分ける賢さを



潮騒デイケアの  
事務所。  
会議中？



鹿島アントラーズ  
優勝バレードで  
エイサー演舞